

平成 26 年 12 月 17 日

江差町議会

議 長 打 越 東 亜 夫 様

社会文教常任委員会

委員長 大 門 和 子



委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第 78 条の規定により、下記のとおり報告する。

記

1. 調査事件

平成 26 年 第 3 回定例会

発議第 14 号 パークゴルフ場に関する事務調査について

2. 調査の経過と結果

本委員会は、平成 26 年 9 月 25 日、11 月 14 日、11 月 26 日及び 12 月 12 日の 4 日間会議を開催し、11 月 26 日には、町長及び担当課の職員からの説明を受けた。10 月 1 日には、町内にある 3 地区の現地視察と維持管理する南が丘地区の愛遊会、柳崎地区の南松山パークゴルフ愛友会、水堀地区の水堀パークゴルフ協会の担当者より説明を受けた。

また、10 月 29 日には、渡島管内の福島町、松前町のパークゴルフ場において視察研修を行い、調査した結果について別紙のとおり意見を付して報告する。



【意見】

日本は世界でも類を見ない高齢化社会へと突き進んでおり、全国各地の自治体も同じ状態にある。このような中で、近年「生涯スポーツ」の取り組みが広がっているが、高齢者はもとより世代を超えて楽しめるコミュニティスポーツとして注目されているのが「パークゴルフ」である。

パークゴルフは、1983年（昭和58年）に北海道の幕別町に誕生してから31年が経過し、幼児から高齢者まで手軽に楽しめるファミリースポーツとして、浸透している。また、官民によるパークゴルフ場が相次いで整備され、今では全道はもとより、その人気は本州、海外にまで拡大している。

しかし、一方、このような動きの中で初期の簡便な施設で楽しんでいた頃と異なり、利用者からより良い施設及び管理が求められるようになった。施設の競合等によって経営や管理が立ち行かなくなり、廃止となる施設も出てきているとの情報もある。

現在当町には、南が丘、水堀、柳崎地区の3地域において、各ボランティア団体が主体となりパークゴルフ場を造成、維持管理し他町に負けない「地域自慢」のパークゴルフ場がある。

この3地区が取り組んできたことを尊重するとともに、今日のパークゴルフ動向に鑑み、次のとおり推進すべきである。

記

1. パークゴルフ場の維持管理費等への財政的支援の強化について

・これまで3地区の維持管理等については、町からの現物支給を一部受けながら、自主的な管理運営を行ってきた。従前とは異なりボランティアの高齢化により、維持管理に支障を来す状況となってきた。

よって、下記事項に対して財政的支援を図ること。

なお、各地域及び各パークゴルフ団体は、連携を密にして、不特定多数の利用者の使用等に関して万全を図るとともに、各地区のコースづくりについては、「特色」あるものを期待する。

<支援内容>

- ・現物支給（黒土・肥料・芝生の種子）
- ・水道料の一部負担
- ・芝刈りに関する経費（乗用機械の購入資金に係る一部支援・芝刈り作業員支援）
- ・柳崎地区については、「公認コース」を目指した施設整備

2. 愛好者人口の増加への努力について

・パークゴルフは子どもから、高齢者まで楽しめるようにアレンジした個人競技である。現在の愛好者人口は、高齢者がその殆どであるが、孫、子、親の三世代が一緒にプレーを楽しめる「3世代スポーツ」としての可能性をもつことから、行政及

びパークゴルフ団体等については、今後その愛好者獲得に努力すること。

3・パークゴルフによる地域振興及び管理方法の検討について

・パークゴルフの主な成果として考えられることは、高齢者の生きがいづくり、健康増進による医療費の抑制、愛好者や地域の人々とのコミュニティの形成、交流人口の増加による地域への経済波及効果が挙げられる。

今後ともパークゴルフによる様々な効果及び地域活性化が図られるよう期待する。また、将来的なパークゴルフ場の管理運営の方法については、指定管理者制度を視野に入れ、今後の課題としていくべきである。